

新潟市美術館

Niigata City Art Museum

目次

新潟市美術館の概要	1
建築の概要	2
設備の概要	3
美術館平面図	4
主な施設紹介	6
組織及び分掌事務	12
利用案内	12

新潟市美術館の概要

設置目的

美術に関する市民の知識と教養を高め、美術活動を推し進めることによって、郷土の美術文化の向上発展に寄与することを目的とする。

基本的性格

- ①「みる」美術館＝近現代の優れた美術作品を収集・展示する。
- ②「つくる」美術館＝市民が気軽に美術の創作活動に参加する。
- ③「語る」美術館＝市民が作品を発表して語りあい、美術についての見聞を深める。

沿革

昭和53年	9月	美術館建設期成同盟会市立美術館の建設について市長に陳情	昭和59年	2月	教育委員会事務局社会教育課に「美術館開設準備室」を設置
昭和55年	4月	美術館建設計画検討委員会設置 (美術関係有識者8人で構成)	8月		外構工事着工
昭和56年	2月	2月議会臨時会で建設用地取得について議決	12月		本体工事竣工
	3月	建設用地取得(面積9,725.19㎡)	昭和60年	3月	外構工事竣工 美術館条例制定
昭和57年	3月	基本計画発表	4月		美術館設置
	6月	美術館設計競技実施 (指名競技方式 6社指名 審査員7人)	10月		開館
	9月	設計事務所決定 基本実施設計委託契約	昭和61年	3月	博物館登録 (平成11年3月 登録博物館廃止)
昭和58年	3月	基本実施設計完了	平成 4年	6月	常設展示室増築工事着工
	7月	美術館本体工事着工	平成 6年	3月	常設展示室増築工事竣工
	10月	「美術館開設準備会議」「美術資料選定会議」を設置 (準備会議委員12人、選定会議委員6人)	平成12年	3月	博物館相当施設指定
			平成16年	10月	展示照明改修工事着工
			平成17年	3月	展示照明改修工事竣工

受賞歴 〈施設・設備に関する賞〉

- 昭和61年 5月 照明学会照明普及賞(社団法人照明学会照明普及会)
11月 建築業協会賞(社団法人建築業協会)

建築の概要

新潟の情緒を再現した“堀と柳”のある西大畑公園との調和の中で、市民に愛され、親しまれる“開かれた美術館”を目指し、「みる、つくる、語る」の3つのモットーを実現できるよう施設内容に配慮されている。

所在地 新潟市中央区西大畑町5191番地9
敷地面積 9,598.14㎡
構造 鉄筋コンクリート造2階建
建築面積 4,357.90㎡
延床面積 5,471.00㎡
1階面積 4,192.51㎡
2階面積 1,278.49㎡
設計 株式会社前川建築設計事務所
工事期間 開設時建設工事 昭和58年7月～60年3月
常設展示室増築工事 平成4年6月～6年3月
展示照明改修工事 平成16年10月～17年3月

外部仕上げ

屋根 アスファルト防水断熱工法、押えコンクリート
外壁 せり器質特製タイルブロック打込
建具 耐候性銅型材組立断熱仕様ペアガラスサッシュ、ウェザーコートプレパレン処理
外柵・門扉 耐候性銅材組立、ウェザーコートプレパレン処理
建物周り
舗石・舗床 せり器質特製床タイル、レンガ系インターロッキングブロック

内部仕上げ

部門	室名	床	壁	天井
展示	常設展示室	カリフローリング貼	人造木版ガラスクロス貼	岩綿吸音板
	展示室	500角置敷カーペット	難燃合板、荒目布貼	岩綿吸音板
	展示室前室	せり器質特製タイル	プラスター塗AEP	岩綿吸音板
教育普及	市民ギャラリー	せり器質特製タイル	難燃合板、荒目布貼	岩綿吸音板
	図書室	500角置敷カーペット	プラスター塗AEP	岩綿吸音板
	講堂	500角置敷カーペット	マホガニー綿付難燃合板	マホガニー綿付難燃合板
実習室	ビニールタイル	プラスター塗AEP	岩綿吸音板	
調査研究	学芸室	ビニールタイル	プラスター塗AEP	岩綿吸音板
保存	収蔵庫	ならフローリング貼	米杉小巾板樋部倉矧	米杉小巾板相決り貼
		荒床米杉相決り貼		
休憩コーナー	エントランスホール	せり器質特製タイル	せり器質特製タイル プラスター塗AEP	岩綿吸音板
	常設展ロビー	せり器質特製タイル	せり器質特製タイル プラスター塗AEP	岩綿吸音板
	講堂ロビー	500角置敷カーペット	せり器質特製タイル プラスター塗AEP	岩綿吸音板
	休憩室	500角置敷カーペット	プラスター塗AEP	岩綿吸音板
	喫茶室	せり器質特製タイル	プラスター塗AEP	岩綿吸音板
管理	会議室	500角置敷カーペット	プラスター塗AEP	岩綿吸音板

設備の概要

機械設備

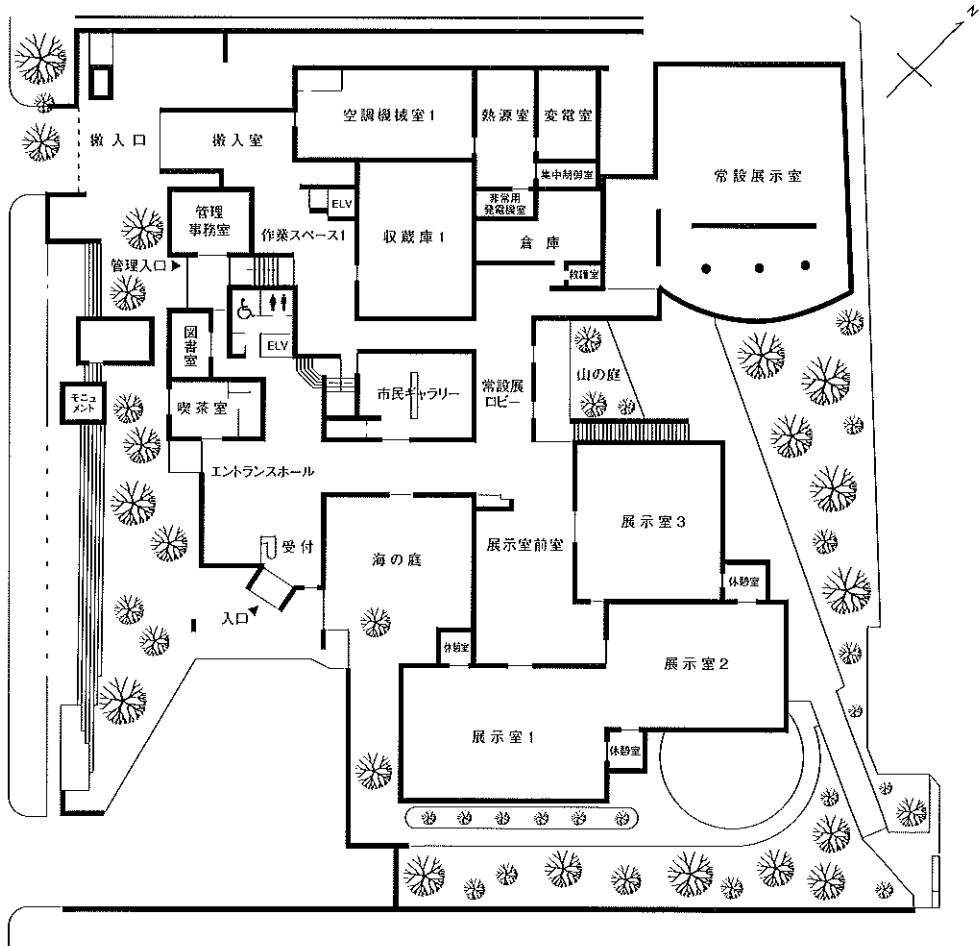
空調和設備	室内温湿度条件
	展示室 夏26℃ 55%RH 冬20℃ 55%RH
	収蔵庫及びガラス展示ケース内
	夏22℃ 55%RH 冬18℃ 55%RH
	一般系統 夏28℃ 50%RH 冬18℃ 50%RH
	熱源機器
	ガス焚二重効用型吸収式冷温水発生機 100usRT×2基
	冷却塔(低騒音・耐塩仕様内部配管型) 90usRT×2基
	空調方式
	変風量(VAV)単一ダクト方式
	展示室 1系統
	定風量単一ダクト方式
	展示室 2系統 その他 5系統
	恒温恒湿パッケージダクト併用方式
	収蔵庫 2系統 ガラス展示ケース 2系統
	個別空冷ヒートポンプ方式
	その他 3系統
換気設備	第1種(機械室、変電室等) 10系統 第3種(便所、実習室等) 10系統
排煙設備	機械排煙 一部自然排煙
給水設備	市水(飲料水、雑用水)
	受水槽 FRP製1槽式 10㎡×1基
	雑用水槽 地下式RC造 18㎡×1基
	自動給水ポンプユニット
	一般給水系統 1基 補給水系統 1基
給湯設備	局所給湯方式(小型電気温水器)
排水設備	合流式 汚水雑排水は屋内2系統で 屋外にて合流し公共下水道へ放流
消火設備	屋内消火栓 6ヵ所 ハロゲン化物消火設備 収蔵庫、展示室、変電室、ガラス展示 ケース他 計11区画
昇降機設備	身体障がい者用エレベーター 1基 (油圧式 11人乗用 30m/分) 荷物用エレベーター 1基 (油圧式 2t 15m/分) テーブルリフター 2t 1基

電気設備

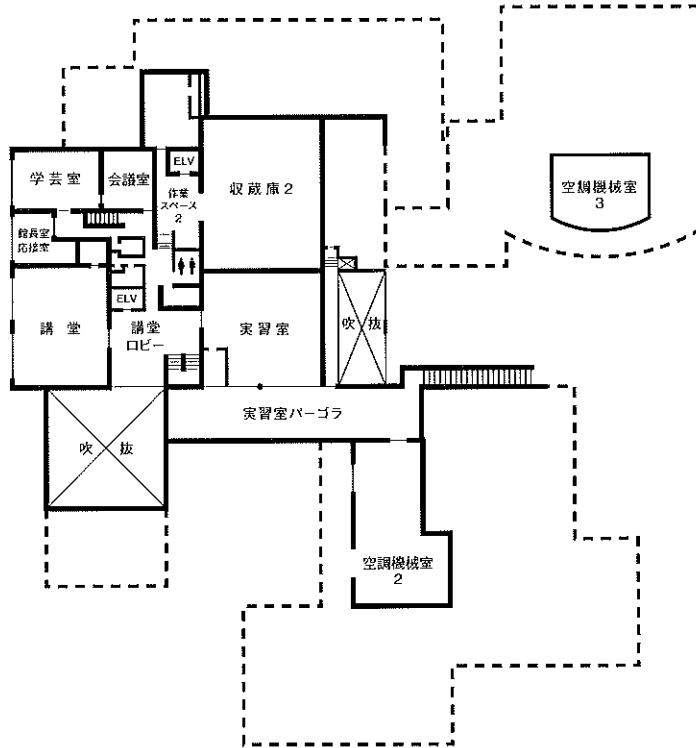
受変電設備	受電電圧 6.6kV
	変圧器容量 3相 300kVA×1台 3相 100kVA×1台 3相 75kVA×1台 単相 100kVA×2台 単相 75kVA×1台
蓄電池設備	密閉型蓄電池 50AH 54セル (非常用照明及び操作用電源として)
発電機設備	ディーゼル機関 140ps 1,500rpm 発電機 100kVA 3相 200V
電灯設備	照明器具 蛍光灯40W 展示室、 市民ギャラリーは高演色性蛍光灯(褪 色防止用)を使用。展示構成によりライ ティングダクト使用の投光照明を可能 とし、併せて調光可能。
放送設備	防災アンプ 160W
電気時計設備	水晶発振式親時計 2回線 子時計 14台
インターホン設備	相互式インターホン 24局
ITV設備	展示室、ホール等の状況をテレビカメラ で管理事務室にて監視
複合防災盤	P型1級 60回線

美術館平面図

1F



2F



部門	室名	面積(m ²)	部門	室名	面積(m ²)	部門	室名	面積(m ²)	
展示	常設展示室	762.53	調査研究	学芸室	65.18	サービスコーナー	講堂ロビー	85.35	
	展示室1	370.30		収蔵庫1	249.68		休憩室1,2,3	60.78	
	展示室2	292.28		収蔵庫2	249.68		救護室	14.17	
	展示室3	307.91		作業スペース1	186.32		喫茶室	72.52	
	展示室前室	293.80		作業スペース2	40.18		廊下・階段・便所等	300.56	
	計	2,026.82		倉庫	94.64		計	824.47	
教育普及	市民ギャラリー	124.80	保存	倉庫前室	4.50	管理	館長室・応接室	37.04	
	市民ギャラリー前室控室	28.28		器材庫	22.53		管理事務室	66.07	
	図書室	33.33		搬入口	118.45		会議室	44.16	
	講堂	145.95		計	965.98		機械室等	710.33	
	実習室	185.36		サービスコーナー	エントランスホール		198.40	廊下・階段・便所等	213.23
	計	517.72			常設展ロビー		92.69	計	1,070.83
							合計	5,471.00	

主な施設紹介

■ 常設展示室

美術館が収蔵した作品による常設の展示を行っている部屋です。

壁面のひとつは、独自の空調が可能なガラス展示ケースで、日本画や工芸作品などを展示できます。ガラス面の前面には、スライド式パネルを引き出して、他の展示壁面と同様に使用できます。

また、立型と平型の可動展示ケースを配置し、さまざまな作品の展示構成ができます。

展示壁面長

153.3(展示ケース除く)

ガラス展示ケース

長さ10.3m、奥行1.2m、高さ3.6m

天井高

小常設展示室3.0m

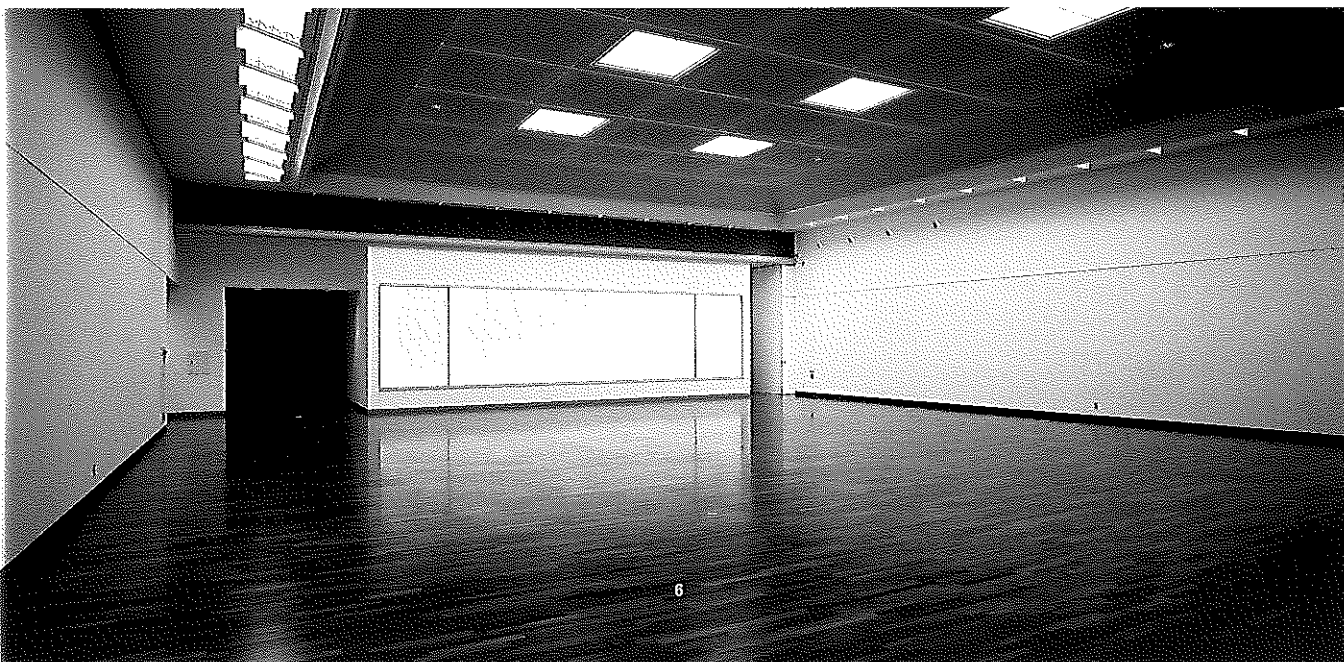
中常設展示室4.0m

大常設展示室5.0m



中常設展示室

大常設展示室

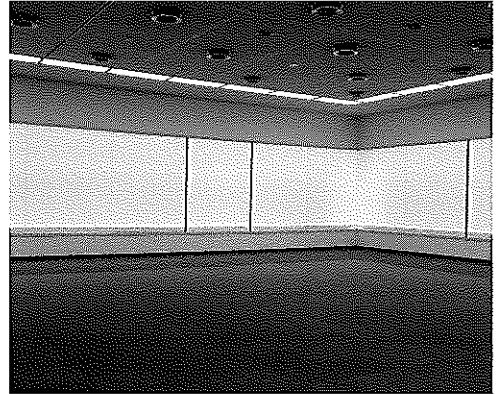


展示室1.2.3

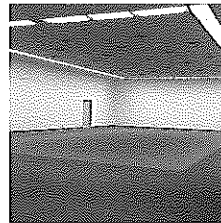
美術館が、自主企画展や共催企画展を行い、すぐれた美術品の鑑賞の場を提供する部屋です。各展示室は、展示構成の必要に応じ、可動展示パネルで空間を配分でき、また、展示室1,2は仕切らずに連続して使用できます。展示作品の照明は、褪色防止用の蛍光灯と4種類のハロゲン球スポットライトを用いて行き、いずれも適当な照度に調整できます。

展示室では、各企画展担当の学芸員による作品鑑賞のほか、コンサートやパフォーマンスなどの展覧会に関連した教育普及事業を行うこともあります。

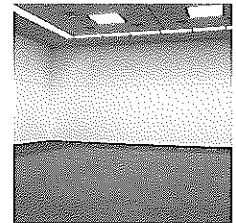
展示室は、美術館が展覧会を行っていない期間、美術資料の展示に利用することができます。



展示室1 ガラスケース



展示室2



展示室3

展示可能壁面

室名	壁面延長 ①	可動パネル使用		展示面延長 ① + ②	天井高	可動パネル設置
		枚数	延長 ②			
展示室1	56.4m	大2枚 小3枚	48.8m	105.2m	4.0m	大 5.9m×3.1m 5枚 小 4.2m×3.2m 6枚
展示室2	60.3m	大1枚 小3枚	37.0m	97.3m	4.0m	
展示室1,2 連続使用 ㉗	106.1m	大4枚 小6枚	97.6m	203.7m		
展示室3 ㉘	57.2m	4枚	45.6m	102.8m	5.0m	5.7m×4.6m 6枚
展示室前室 ㉙	41.7m	2枚	24.0m	65.7m	3.0m	6.0m×2.8m 4枚
全室使用 ㉗+㉘+㉙	205.0m		167.2m	372.2m		

ガラス展示ケース 展示室1 長さ25.1m、奥行1.2m、高さ3.6m

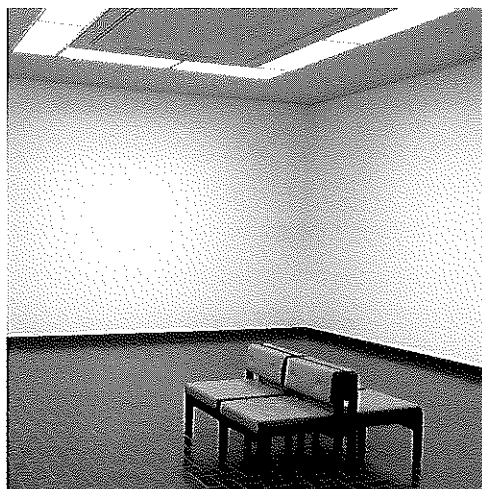
市民ギャラリー

市民の美術創作活動の発表の場として、個展やグループ展などに利用できます。展示壁面で二分されていますので、いずれか一方だけでも利用できます。

なお、展示方法の相談も受け付けます。また、可動展示ケース、スポットライト、彫刻台などを利用できます。

展示壁面長 50.1m(A室 21.7m、B室 28.4m)

天井高 3.3m



実習室

市民が創作活動をとおりて美術に親しむための、「つくる」場です。室内には、30の椅子席のほか、各種の石膏像、イーゼルやエッチングプレス機、リトグラフプレス機などを備えています。また、版画制作の薬品処理室や雨天でも作業が可能なテラスを設けています。

毎週金曜日は無料で実習室の開放を行っています。

美術館が行う教育普及事業のほか、美術に関する市民の創作の場として、個人やグループで利用できます。



実習室



版画室

講堂

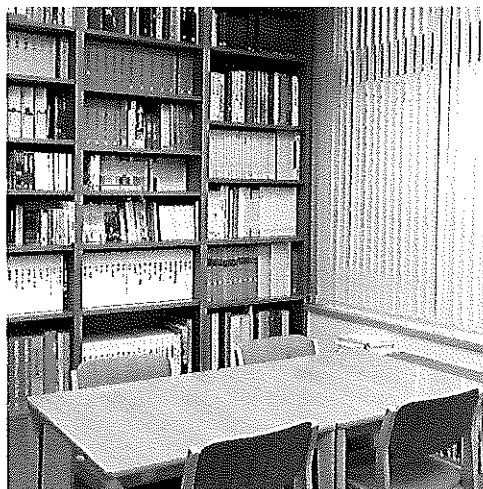
市民が「語る」ことをとおして美術に親しむための場です。126の椅子席を備え、落ち着いた色調で統一された室内からは、西大畑公園が望めます。また、スライド映写機、ビデオ装置などの視聴覚機器を備えています。

講堂では、美術講座、展覧会に関する講演会、映写会などを開催します。また、美術に関する講演会、研究会など市民の研究の場としても利用できます。



図書室

美術関係のさまざまな図書、雑誌、新聞などが自由に閲覧できる部屋です。図書は、美術館独自の分類法で整理され、カードで検索でき、造りつけの書架と、手動式の書架に収納されています。



■ 収蔵庫

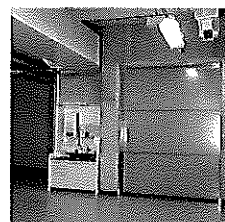
所蔵品を保管するところです。米杉材によって内装された1、2階の庫内は、常に適切な湿度に設定された条件のもとで空調されています。また、美術資料が安全で有効に収蔵できるよう特別に設計された7種類の棚などが配置されています。作品の状態や分野によって、絵画を吊り下げておく電動ラック20台、主に箱(たとう)入りの版画を収納する固定収納棚、屏風などを収納する木製収納棚、工芸などに使用する固定棚、定置棚、二段式収納棚、そして、版画ケースなどに分けて収蔵します。立体の作品は、庫内にスペースを定めて収蔵します。



収蔵庫1

■ 作業スペース

美術作品の搬入、搬出の際の解梱、梱包、点検といった一連の作業を安全ですみやかに行うところです。大量な内外の輸送資材も保管できる十分なスペースです。



作業スペース

収蔵庫2



■ エントランスホール・常設展示室ロビー

鑑賞の合間の休憩や待ち合わせ、交流の場として気軽に利用することができます。



常設展示室ロビー

■ 喫茶室

西大畑公園の景色を眺めながら、お茶や軽い食事を楽しみ、ゆっくりとくつろぐことができ、夏にはテラスも利用できます。

店名は当館の開館記念樹にちなみ「ななかまど」といいます。

※ ナナカマド 美しく紅葉し、赤い実を結ぶバラ科の落葉高木で、上質な堅炭の材料として古くから用いられ、炭焼きの工程に7日間を要することが名の起りといわれています。



喫茶室

■ 庭園

館の外周には、野外彫刻の展示場も兼ねたくつろぎの場として、「海の庭」「山の庭」があり、散歩を楽しむことができます。前庭には、現代日本の代表的彫刻家のひとり、埴島寛造のステンレスによるモニュメント「ウェイヴィング・フィギュア」の美しい姿をみることができます。



前庭

組織及び分掌事務

新潟市	美術館 館長(嘱託) 副館長	管理事務担当	1	美術資料の特別観覧の許可に関すること。
			2	美術館の施設及び設備(以下「施設等」という)の利用の許可に関すること。
			3	美術資料の観覧料、特別観覧料及び施設等使用料に関すること。
			4	美術資料に関する案内書、解説書、図録などの頒布に関すること。
			5	入館者に対する総合案内及び館内の秩序維持に関すること。
			6	施設等の維持管理に関すること。
			7	貸館事業に関すること。
			8	美術館運営協議会、美術資料選定委員会に関すること。
			9	公印及び文書に関すること。
			10	庶務に関すること。
		学芸担当	1	美術資料の収集、保管及び展示に関すること。
			2	美術資料に関する専門的な調査研究に関すること。
			3	美術資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関すること。
			4	美術資料の寄贈及び寄託に関すること。
			5	他の美術館、博物館その他関係機関との協力に関すること。
			6	教育普及事業に関すること。
			7	その他美術館の目的を達成するために必要な事業に関すること。

利用案内

開館時間

午前9時30分～午後6時(但し、夜間開館の場合は午後8時まで)

休館日

月曜日(祝日または振替休日の場合は、その翌日) 祝日または振替休日の翌日(日曜日にあたる場合は、火曜日)

年末年始(12月28日から翌年1月3日まで)

観覧料

区 分		観覧料(1人1回につき)(円)		
		個 人	団体 (20名以上)	市内定期観光 バス利用の者
常設展示観覧	一 般	200	160	160
	大学生・高校生	150	110	110
	中学生・小学生	100	70	70
企画展示観覧 (常設展示観覧を含む)	一 般	企画展示観覧に係る実費を 勘案してその都度市長が定める額		
	大学生・高校生			
	中学生・小学生			

特別観覧料

区 分		特別観覧料(円)	
撮 影	カラ ー	1点1回 につき	3,000
	モノクロ		2,000
模写・模造			2,000
熟 覧			500

備考 表中の「1回」とは、撮影にあっては、同一美術資料について原板3枚以内をいう。

※土・日・祝日は、小・中学生無料です。

※企画展開催中はその観覧券で常設展もご覧いただけます。

■ 施設使用料 (平成15年4月1日より改正)

区 分	施設使用料(円)		
	1日 (午前9時30分～午後6時)	午前 (午前9時30分～正午)	午後 (午後1時～午後6時)
展示室1	30,000	10,000	20,000
展示室2	24,000	8,000	16,000
展示室3	25,000	8,300	16,700
市民ギャラリー	8,000	2,700	5,300
実習室	9,000	3,000	6,000
講 堂	11,000	3,700	7,300

備考

- 1.市民ギャラリー及び実習室は、入場無料を条件とし、作品などの販売行為はできません。
- 2.利用時間が表に定める利用時間に満たない場合でも、時間割計算は行いません。
- 3.利用期間中に、休館日がある場合は、休館日の日数分の使用料は徴収しません。ただし、休館日に搬入、飾りつけ、搬出などのために利用する場合は、有料となります。

■ 設備使用料

品 名	単 位		使用料(円)
可動展示パネル	1枚	1日	400
可動展示ケース	1台	1日	400
スポットライト	1個	1日	200
ピンスポット	1個	1日	300
彫刻台	1台	1日	100
映写機16ミリ	1式	1回	1,500
実物投影機	1式	1回	1,600
オーバーヘッドプロジェクター	1式	1回	800
スライド映写機	1式	1回	800
ビデオ再生装置	1式	1回	1,100
移動式ビデオ再生装置	1式	1回	900
エッチングプレス機	1台	1回	1,300
リトグラフプレス機	1台	1回	1,400
ヒーター付ウォーマー	1台	1回	700
感光焼付器	1台	1回	800
電気暖房器	1台	1回	400
電気受口	1個(1kW以内のもの)	1回	150

備考

- 1.「1日」とは、午前9時30分から午後6時までの間をいい、「1回」とは、午前9時30分から正午まで、又は午後1時から午後6時までをいう。
- 2.「電気受口」とは、機器を持ち込んで美術館の電気受口を使用する場合をいう。

■ 受付期間

区 分	受 付 開 始 日
展示室1,2,3及び設備	利用開始日が4月1日から9月30日までの間にある場合は、利用開始日の属する年の前年の11月1日から
	利用開始日が10月1日から12月31日までの間にある場合は、利用開始日の属する年の4月1日から
	利用開始日が1月1日から3月31日までの間にある場合は、利用開始日の属する年の前年の4月1日から
市民ギャラリー及び設備	利用開始日の9か月前の月の1日から
実習室、講堂及び設備	利用開始日の3か月前の月の1日から

■ 利用期間

区 分	利用期間
展示室1,2,3及び設備	引き続き3週間以内
市民ギャラリー及び設備	引き続き2週間以内
実習室及び設備	1日以内
講堂及び設備	引き続き2日以内

新潟市美術館

Niigata City Art Museum

〒951-8556

新潟県新潟市中央区西大畑町5191-9

TEL 025-223-1622

FAX 025-228-3051

http://www.ncam.jp/

交通案内

バス 新潟駅万代口バスターミナルより

- 3番線「市美術館前行」に乗車約16分(始発10:05)
- 2番線「附船町行」に乗車約20分、西堀通8番町下車、徒歩約5分
- 市内関屋方面から、西循環線(信濃町先回り)神宮前下車、徒歩5分
- 他の路線バス古町下車、徒歩約10分

タクシー

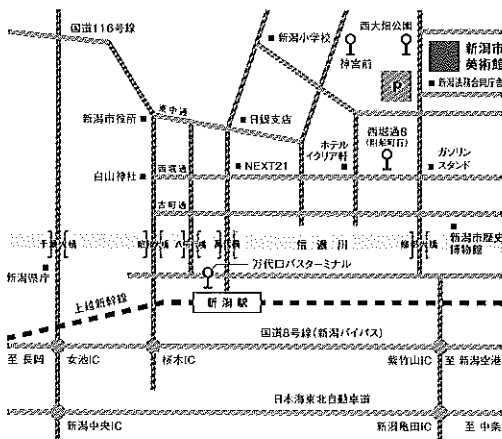
新潟駅万代口から約10分

自動車

- 北陸自動車道 新潟西I.C.、または、磐越自動車道 新潟中央I.C.を降り、桜木I.C.へ(新潟中央I.C.より約25分)
昭和大橋を渡り、新潟地方裁判所手前を右折、西堀通を直進
ホテルイタリア軒過ぎ、ガソリンスタンド(出光)のある信号を左折、250m
- 日本海東北自動車道、新潟亀田I.C.を降り、紫竹山I.C.へ
柳都大橋を渡り、直進約1.2km

新潟までのアクセス

- JR上越新幹線で東京-新潟間約2時間
- 札幌(新千歳)空港-新潟空港は約1時間15分
- 大阪(伊丹)空港-新潟空港は約55分
- 名古屋(小牧)空港-新潟空港は約55分
- 名古屋(中部国際)空港-新潟空港は約55分
- 福岡空港-新潟空港は約1時間40分
- 新潟空港から新潟駅までは、バスで約25分



Copyright © 2010 Niigata City Art Museum. All rights reserved.